

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editorの責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
 - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
 - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊・実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

編集後記

政府が2000年度に実施することにしてきた医療保険制度の抜本改革案が先送りされようとしている。従って卒後臨床研修必修化も先送りされ、今国会で可決される可能性は少なくなった。今日の政府に対する不信感は募るばかりである。

しかし、遅かれ早かれ必修化は避けられない、いや避けるべきではない。今日まで、大学、研修指定病院、大規模の病院、一般病院や診療所など、さらには文部省、厚生省、医師会など、それぞれの立場から、自分に有利になるような発言が相次いだ。すでに議論は尽くされ、実施する以外に手の打ちようがない所まで来たといえる。

卒後臨床研修は、スーパーローテイトでなければ意味がない。今後臨床医学はさらに専門化、細分化が進むであろうが、だからこそスーパーローテイトの卒後臨床研修が必要になる。また、それを一層効果的にするには、大学と臨床研修指定病院ないしはそれに準ずる病院が協力体制を組まねばならない。そして少なくとも卒後臨床研修では学閥、門閥の壁はいっさい取り除き、卒業した大学の異なる研修医が集まり、研修することにより、一層その効果はあげねばならない。

最近日本の政治は日和見的な、決断に乏しい軟弱なものとなってしまった。大局から見てこうだ、あるいは国家百年の計なのだといった言動は影を潜めてしまった。法案にしてもはじめの意気込みはどこかへ行ってしまい、切れ味の悪い、曖昧なもの、さらにいうと理念のしっかりしていないものばかりが通っている。

せめて卒後臨床研修の制度くらい、自分の立場のみから考えないで、またいわゆる政治的配慮による妥協はやめて納得の行くものを実施したい。

(吉田 修)

泌尿器科紀要 第46巻 第2号 2000年2月25日 印刷 2000年2月29日 発行
 発行 小川 修 顧問 吉田 修 発行所 泌尿器科紀要刊行会
 〒606-8392 京都市左京区聖護院山王町18 メタボ岡崎301号 電話 (075) 752-0100
 FAX (075) 752-0190

印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入
